

表8 昭和56年度福島県芸術祭主催行事

行事名	期日・時間	会場	内容
短歌大会	10月4日 10時30分～15時30分	鹿島町民体育館	選者 山本 友一 申込締切 7月31日 問合せ 鹿島町教育委員会 (一首1,000円・昼食を含む)
詩祭・講演と朗読の集い	10月4日 10時30分～15時30分	原町市文化センター	講師 石垣 りん (日本現代詩人会々員) 講演 各地区代表による詩の朗読・新刊詩集著者紹介等 (参加無料)
相双写真展	10月9日～11日 9時～16時	相馬市民会館	写真の公募展 問合せ 相馬市教育委員会 申込締切 8月10日 審査員 菅野 善勝 (入場無料)
三曲演奏会	10月11日 11時30分～15時30分	原町市体育館	尺八・琴等の演奏会 尺八(都山流・琴古流) 琴(山田流・生田流) (入場料 500円)
絵画陶芸展	10月24日～27日 9時～16時	原町市文化センター	絵画・陶芸の展覧会 (入場無料)
合唱合奏大会	10月25日 10時30分～14時	双葉中学校体育館	合唱の部 4団体及び招待合唱 講師 荒 武敬 合奏の部 双葉高校吹奏楽部 (入場無料)
川柳大会	10月25日 10時～16時	原町市太田公民館	講師 今野 空白 申込締切 10月25日 審査員 吾妻柳郎・やぶうち三石ほか8名 問合せ 原町市教育委員会 (投稿料 1,500円)
民謡発表大会	11月1日 9時30分～14時	楡葉町民体育館	出演 富岡町・川内村・広野町・楡葉町の民謡愛好会7団体による民謡発表大会 琵琶演奏・樋口圭水(川内村) (入場料 200円)
書道展	11月1日～3日 9時～16時	大熊町第二体育館	書道の公募展(小中高校生の部・一般の部・特別出品の部) 申込締切 9月3日 問合せ 大熊町教育委員会 (出品料一般1点500円小中高生無料)
俳句大会	11月1日 10時～15時	広野町民体育館	講師 清崎 敏郎 申込締切 8月10日 問合せ 広野町教育委員会 選者 藤村多加夫ほか (投稿料 1組(2句)1,000円)
詩吟大会	11月8日 12時～15時30分	富岡第一小学校屋内運動場	相双地域を中心とした詩吟のグループ発表会 (入場無料)
秋の民謡まつり	11月8日 9時～15時	浪江町民体育館	浪江町を中心として相馬・双葉地方の民謡団体による民謡発表会 (入場無料)
盆栽・水石展	11月14日～15日 9時～16時30分	相馬市民会館	盆栽・水石の公募展 申込締切 10月31日 問合せ 相馬市教育委員会 審査員 盆栽・桜井弘佑 水石・渡辺 実 (入場無料)
民俗芸能発表会	11月15日 10時～14時30分	小高勤労者体育センター	相双地方に古くから伝わる代表的な民俗芸能を10種目発表する (入場無料)
邦舞大会	11月23日 10時～16時30分	相馬市民会館	出演団体 相馬市花柳流花橋会・原町市泉舞踊会・相馬市相奄会 (入場無料)

十六 福島県文化センター運営

県文化センターが昭和四十五年九月にオープンして以来、その管理運営を財団法人福島県文化センターに委託しているが、開館後満十年を経た現在、本県における文化施設として特色ある館づくりをめざして、昭和五十六年度は自主企画による事業はもちろん、各種事業について検討を加えた。即ち低廉な料金での中央の優れたオーケストラの演奏会、児童の情操教育の一助に資するため少年劇場、県民参加の舞台発表事業、又は県内美術界の動向調査並びにその結果に基づき、ふるさとを描く展、福島県近代日本画の歩み展等の実施、一方においては、画期的な福島県文化要覧の刊行、自由民権百年記念資料展、母畑地域を中心とした遺跡分布発掘調査等々多彩な事業を展開しながら「動く文化センター」として、県内各地域に活動範囲の拡大に努めている。

表9 昭和五十六年度福島県文化センター事業

事業名	実施期間	場所	参加入場人員
(1) 寄席芸能 (自主事業)	一一・二七	県文化センター	一、九五一
(2) オークストラ公演	九・九	県文化センター	三、七〇〇
(3) 親子劇場	七・五	県文化センター	二〇、二九九
(4) 少年劇場	六・一・六・一五	福島市ほか九市二町	一、二〇〇
(5) 福島県パレエフェスティバル	五・四	相馬市民会館	一、二〇〇
(6) 福島県吹奏楽トップコンサート	六・一四	県文化センター	一、二〇〇
(7) 福島県三曲演奏会	五・二四	県文化センター	一、一〇〇

五十五年度の当センターの利用状況は、三十六万六千余人の多きに達し、前年度に対し十三パーセントの増加をみるに至った。

主な施設の利用状況をみると、文化会館では、大ホールにおける催し物が百十九回(十五万一千余人)、小ホールで百八十四回(五万余人)に及んでいるが、このうち四十五パーセント強が音楽会である。美術博物館では、二階展示室の利用回数十八回(一〇七日)入場者三万三千余人、三階展示室は十七回(二五六日)十一万二千余人合計三十五回四十四万六千余人であり、利用度が高い。

会館の管理関係においては、大ホールの舞台効果が一層高まることと、舞台装置の安全な確保を期すために、音響工事並びに吊り物のロープ・ボイダーケープルの更新、身体障害者の利用を配慮しての設備の改善等、庭園整備として前庭にプロンズ像を設置するなどよりよい環境づくりに努力した。